

びとう和広 市政報告

発行日：2019年5月1日

発行者：三田市議会議員
びとう 和広

2019年度予算は、成熟のまちづくりへ！

三田市議会定例会3月議会では、条例案件・2018年度補正予算・2019年度予算審議行なわれ、全件可決または承認されました。ここでは、2019年度予算の概要と会派「市民の会」の一般質問について報告します。

1. 2019年度予算概要：「共につくる未来へのまちづくり予算」

○2019年度の三田市当初予算（単位：億円）

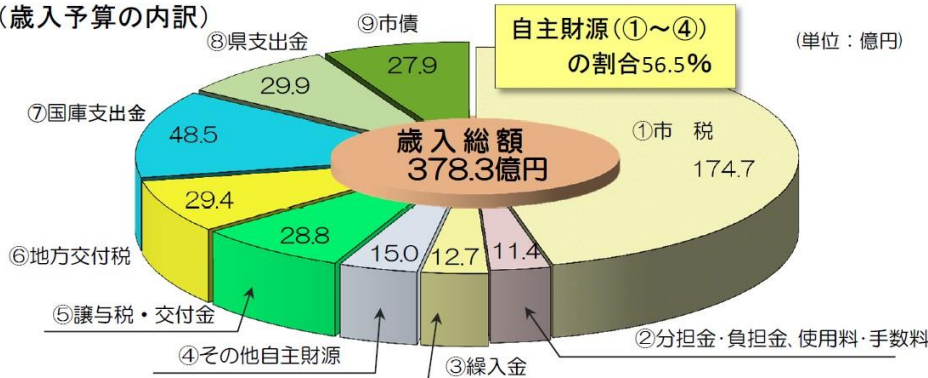
年度	2005	～	2015	2016	2017	2018	2019	⇒	対前年	%	
一般会計	451.0	～	396.2	398.0	376.1	369.1	378.3	⇒	9.2	2.5%	増 一般事務
特別会計	302.0	～	192.4	202.2	208.1	192.6	198.7	⇒	6.1	3.2%	増 国保・後期高齢等
企業会計	129.5	～	194.9	199.9	213.9	213.9	204.7	⇒	-9.2	-4.3%	減 病院・水道
計	882.5	～	783.5	800.1	798.1	775.6	781.7	⇒	6.1	0.8%	増 10会計合計

○2019年度予算額の主な増減（対前年度比）

+	けやき台中学校大規模改修	3.8億円	(3.4億円増)	
+	福島土地地区画整備事業	2.6億円	(1.4億円増)	…新三田駅周辺
+	扶助的経費（幼保無償化等含む）	83.6億円	(3.7億円増)	…認定こども園など
-	消防救急車両整備事業	0.4億円	(1.9億円減)	…昨年：はしご車購入
-	他会計支出金	61.6億円	(1.3億円減)	

○歳入予算

（歳入予算の内訳）



◎市税 0.3億円減

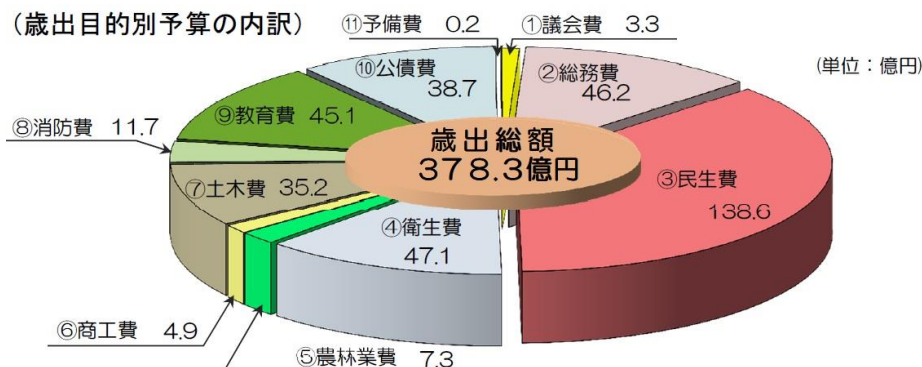
- ・市民税 85.1億円 1.4億円減
- ・ふるさと納税は半減
- ・固定資産税 71.4億円 0.7億円増

◎繰入金 1.4億円減

- ・財政調整基金 1.4億円±0
- ・水道事業会計 5.0億円±0
- ・ニュータウン基金 2.0億円
- ・三田っ子応援基金 2.0億円等々、自主財源が2.3%減少

○歳出予算

（歳出目的別予算の内訳）



◎民生費 7.2億円増 (5.5%増)

- ・施設型給付費：14.5億円
- ・地域介護拠点整備補助：2.2億円
- ・児童扶養手当給付：3.4億円
- ・放課後等デイサービス：2.2億円

◎教育費 3.5億円増 (8.4%増)

- ・中学校校舎改修：3.8億円
- ・図書館管理運営費：2.2億円
- ⇒指定管理見直しで年間0.5億円減

- ・市民病院事業会計に22.0億円補助費支出。病院のあり方を早く方針決定し、効率的な投資が必要。
- ・国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療事業に合計30.3億円繰出し。
- ・大きな事業は少ないですが、学校・園の空調など、民生・教育と施設改修に重点投資する予算です。

2. 市民の会一般質問と答弁の要点(市民の会は檜田議員が代表質問)

(問1) 森市長1期目の総括

- ・「地域の創生」「まちの再生」「人と人の共生」に基づく成熟のまちづくりの取り組みは道半ば。
- ・市長就任時に掲げた公約「プロジェクト5」の重点施策は、実施済みか目処がついた。
- ・健全財政の維持のため、職員/議員の給与/報酬の減額や市民サービスで痛みや負担いただいた。
- ・2019年度予算は「共に創る未来へのまちづくり予算」として「子育て支援」や「教育」については新規・拡充事業に積極的に取り組む。

(問2) 公共交通の充実に向けて

- ・「地域公共交通網形成計画」を3月末に策定。
- ・「幹線交通」「支線交通」「地域内交通」と、切り分けて対策を進める。
- ・支線交通は、地域内の生活交通拠点と駅等交通拠点の移動を支える交通機能。担い手は、路線バスか、乗り合いタクシー・自家用車有償運送などの事業者と連携した持続可能な地域交通手段。
- ・テクノパークへの混雑対策は、企業によるマイカー通勤の抑制や具体的政策を研究する。
- ・幹線交通の利用料金は、市・交通事業者・テクノパーク企業が連携し、具体的政策を研究する。

(問3) 学校における働き方改革

- ・三田市の教職員1ヶ月時間外の調査結果は文部科学省ガイドライン45時間に対して、中学校教員54時間、小学校教員35時間(平均なので個人差は有)
- ・部活動指導員4学校に配置。
- ・業務の明確化・適正化について研究に努める。
- ・変形労働時間制の導入は、慎重にすべき。

(問4) 学校の再編について

- ・学校再編計画は、少子化が進む中、より良い学びの環境を作ると言う視点で提案
- ・説明会での意見を真摯に受け、今後各地域での状況に応じて小学校区など、より小規模な単位で意見を聞く場を設けるなど理解に努める。

(問5) 共生のまちづくりに向けて

- ・2018年7月障害者共生条例の施行以来、障害を理由とする差別の解消と啓発、合理的配慮の提供促進などを進め、現在「三田市障害者共生協議会」で、どのような取り組みが必要なのか協議検討中。
- ・三田には1月末現在、42カ国、1120名の外国人が在住している。個別の条例ではなく、すべての市民一人ひとりの人権が尊重される「共生のまちづくり」を進めていくための方策を検討する。

(問6) 若者のまちづくり活動支援と市の連携

- ・三田には大学・短大・専門学校と6つの高等学校など、教育拠点多く、2016年度から学生のまちづくりワークショップを開始し、2017年度から活動応援推進制度を創設して資金面も支援。
- ・参加者は気概と活力を有する貴重な存在なので、卒業後も郵送やSNSで学生生活の故郷「関係人口」として、つながりを維持する。
- ・地域への信頼の証として市の認定付与を考える。

(問7) 就学前教育・保育無償化による市の影響

- ・無償化にかかる経費は、国1/2・県1/4・市1/4とのことだが、基準財政需要額に算入で、間接的に財源を確保したが、詳細は未定。
- ・無償化で待機児童は不公平なので、2020年4月目途に3歳児受け入れ施設確保を進める
- ・待機児童平成30年10月1日現在で37人、現在の状況は連休明けに発表の予定。

(問8) 三田市民病院

- ・現体制では、急性期医療を永続的に提供し続けることは困難であり、今後急性期医療担う医療機関を集約化し、豊富な医師・医療人材のもと、高度な医療機能で、医療需要と安定的経営を図る。
- ・再編・ネットワーク化に関する取り組みは、三田市単独では進めることができない。現在、具体的な協議を進める段階には至っていない。
- ・病院職員には、丁寧に説明や情報提供や意見交換を行ってきた。今後も適時説明を行なう。

(びと) 3月議会最終日、森市長から2期目に向けた出馬表明がありました。現在の厳しい財政状況に対し、財政健全化に向け、大きく舵を切られたことは評価します。ただ、もっと市民が納得できる進め方があるのではないかと思います。例えば、財政状況を認識いただき、地域ごとに予算枠の中で、市民自らが効果的な方法を考えて費用節約する手順や、費用削減を市職員と一緒に考えるなど、協働を進める方法です。市長公約は確かに重要ですが、今回の予算も、もう一步市民に寄り添っていただければ、と思います。

<自宅>〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号

Tel: 079-562-8653, Fax: 079-562-0730

<電子メール> bit@venus.dti.ne.jp

<ホームページ> <http://www.bitto-kazuhiro.com>



三田市議会議員

かずひろ
びと 和広

